

乳がんは女性がかかるがんでは一番頻度が高く、毎年6万人以上の新しい患者が発見されています。乳がんの特徴は40歳から50歳までにピークがあり、子育てや仕事で頑張っている世代がかかりやすいことが問題です。女優のアンジェリーナ・ジョリーさんが、母親と叔母が乳がんにかかっているため、遺伝



四国健康七
徳島大病院食道・乳腺甲状腺外科
丹黒 章 教授

子検査を受けて予防的に乳房切除をしたというニュースが報道されましたが、日本でも若年者のがんも増えており、10%は遺伝性乳がんの可能性があまりありません。血縁者に乳がんや卵巣がんにかかった方が2人以上いる場合は要注意で、四国でも大学病院やがんセンターで遺伝相談や遺伝子検査を受けることができます。

乳がんの発生には女性ホルモンが関与しており、初潮が早く、閉経が遅いことが、乳がん増加の要因です。乳がんを予防することはできませんが、早期発見により完治することは可能です。

す。欧米では1990年以降、がん死亡が減少しています。約8割近くの女性がマンモグラフィ検査を受け、早期に発見されているからです。マンモ検査の利点は、「しこり」になる前にがんを発見できることです。20

乳がん死 マンモ検診で大幅減

12年度のマンモ検査受診率は全国で11・6%、徳島では8・9%でした。受診率が50%になれば、がん死亡は半減するはず

です。治療は手術とホルモン療法、抗がん剤やハーセプチンという分子標的治療薬(がんを増殖させる細胞内の分子に作用してがんを治す薬)で行います。針で採取したがん細胞を調べ、効果のある薬を使ってがんを小さくして手術をする術前治療を行い、大きながんでも乳房温存ができるようになり、薬でがんが消えてなくなれば再発が少なくなります。乳がん治療薬は新しいものがどんどん開発され、治療成績は向上していますが、治療費は次第に高価になっていきます。最近出た分子標的治療薬は1カ月の薬代が75万円もかかるため、高額療養費制度という保険の援助を受けることができます。経済的な観点からも、がん検診を受け、早期に発見することが大事です。